

第5章

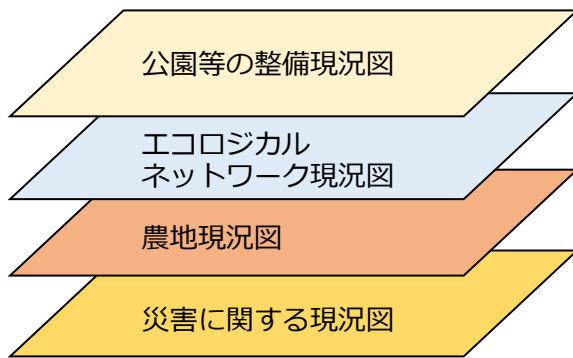
方針図

1 みどりの方針図とは

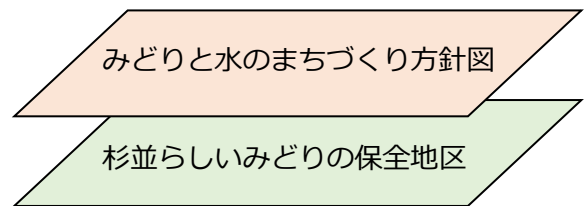
みどりの方針図では、公園の整備状況やエコロジカルネットワークの状況、農地の分布状況など、みどりに関する様々な現況の位置図を重ね合わせることで、浮き彫りになった課題に対し方針を定めます。

こうすることで、複数の課題を同時に解決するための効果的な施策を設定することができます。さらに、7つの地域それぞれでみどりの現況を詳細に把握することで、地域の特性を踏まえた施策を設定します。

現況図



方針図



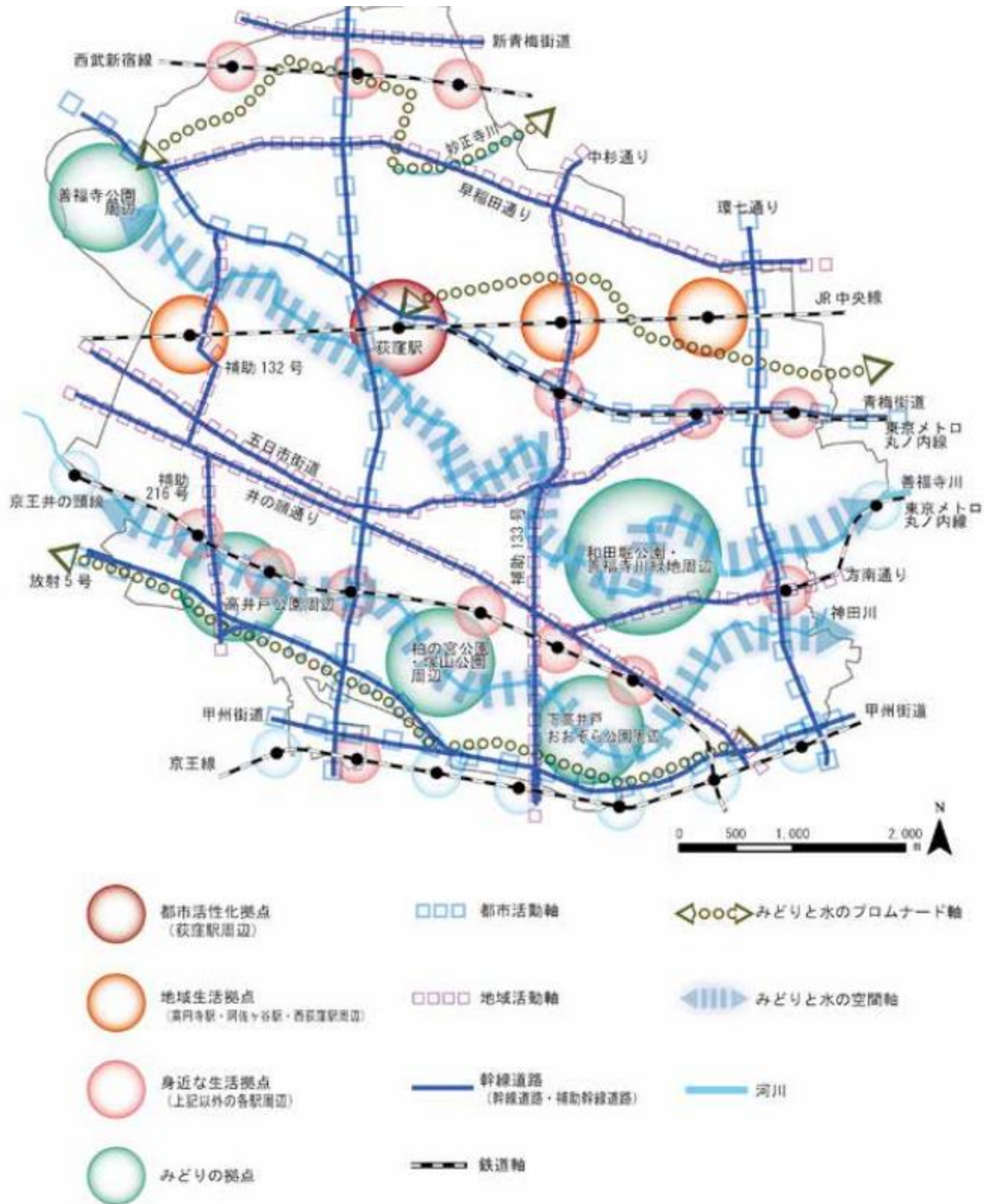
みどりの方針図

地域別方針



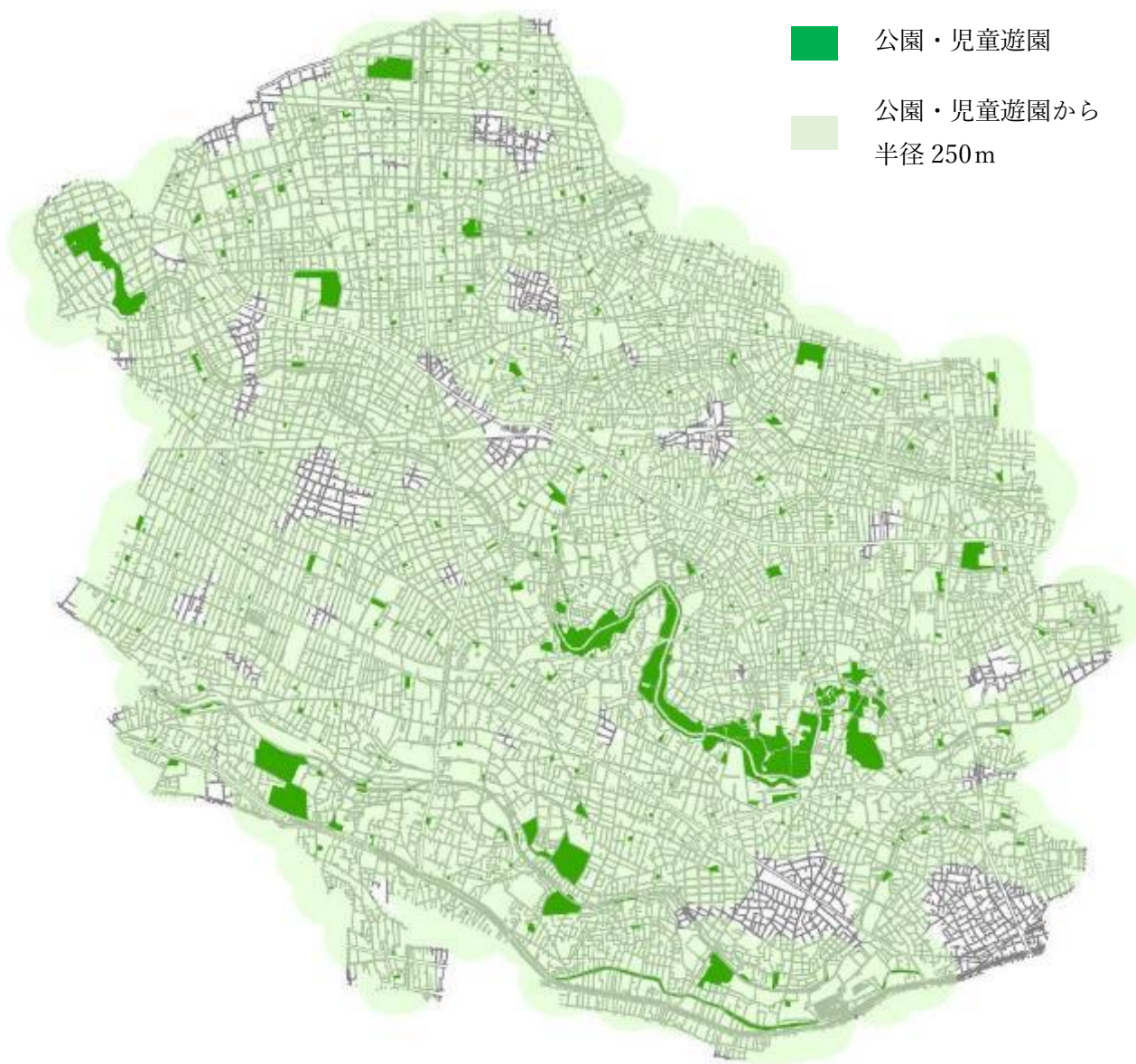
2 みどりと水のまちづくり方針図

杉並区まちづくりの基本方針では、みどりと水のネットワークの形成を図るため、方針図を作成しています。



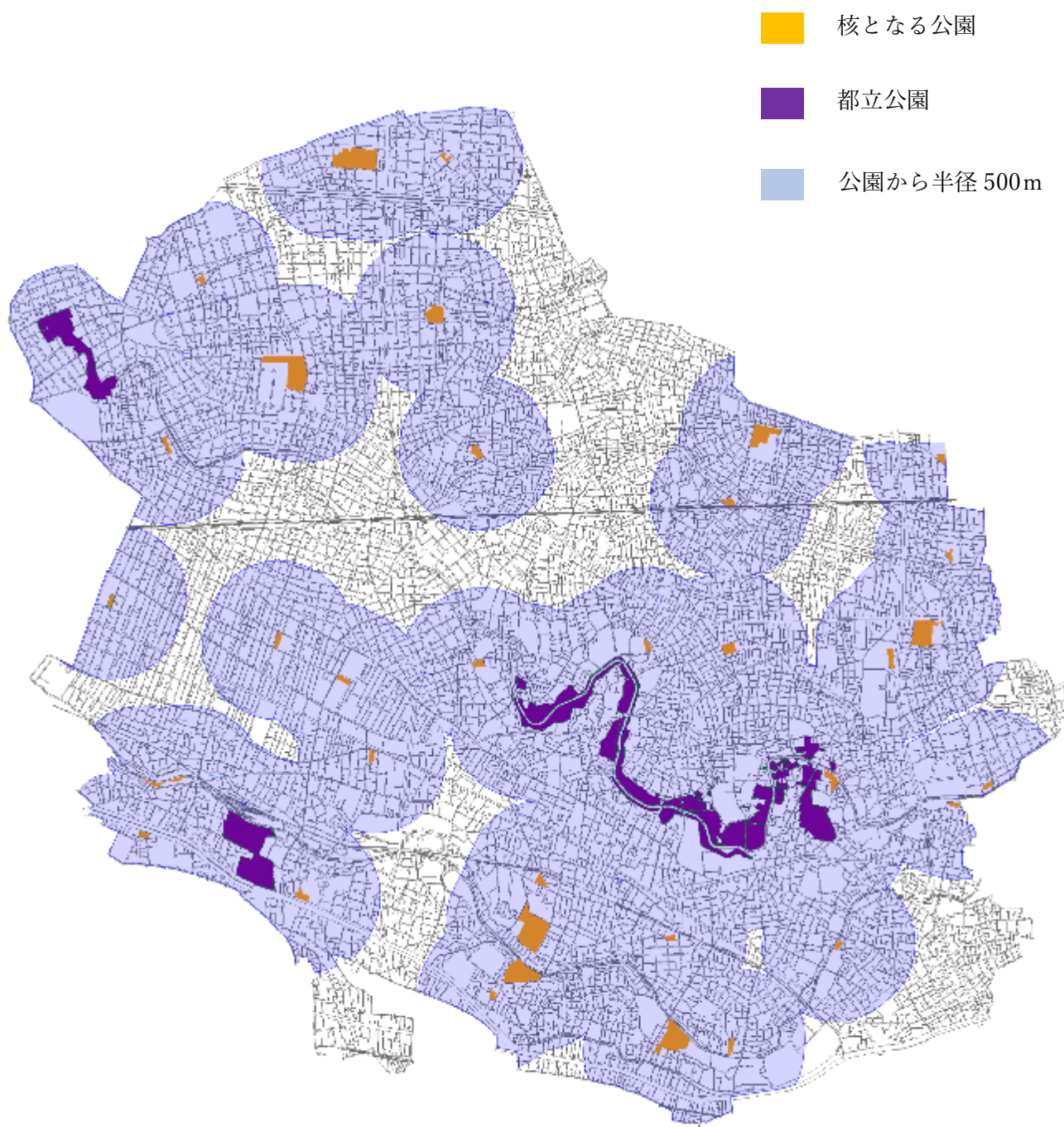
3 公園等の整備現況図

区立公園と区立児童遊園、あわせて都立公園を地図上に配置し、半径 250m（徒歩約 4 分）の範囲を図示すると下図のようになります。身近に歩いて行ける距離に公園や児童遊園があるところが区内の大部分を占めていることがわかります。荻窪駅や阿佐谷駅周辺、和泉一丁目付近など公園が不足している地域に整備を進めていきます。

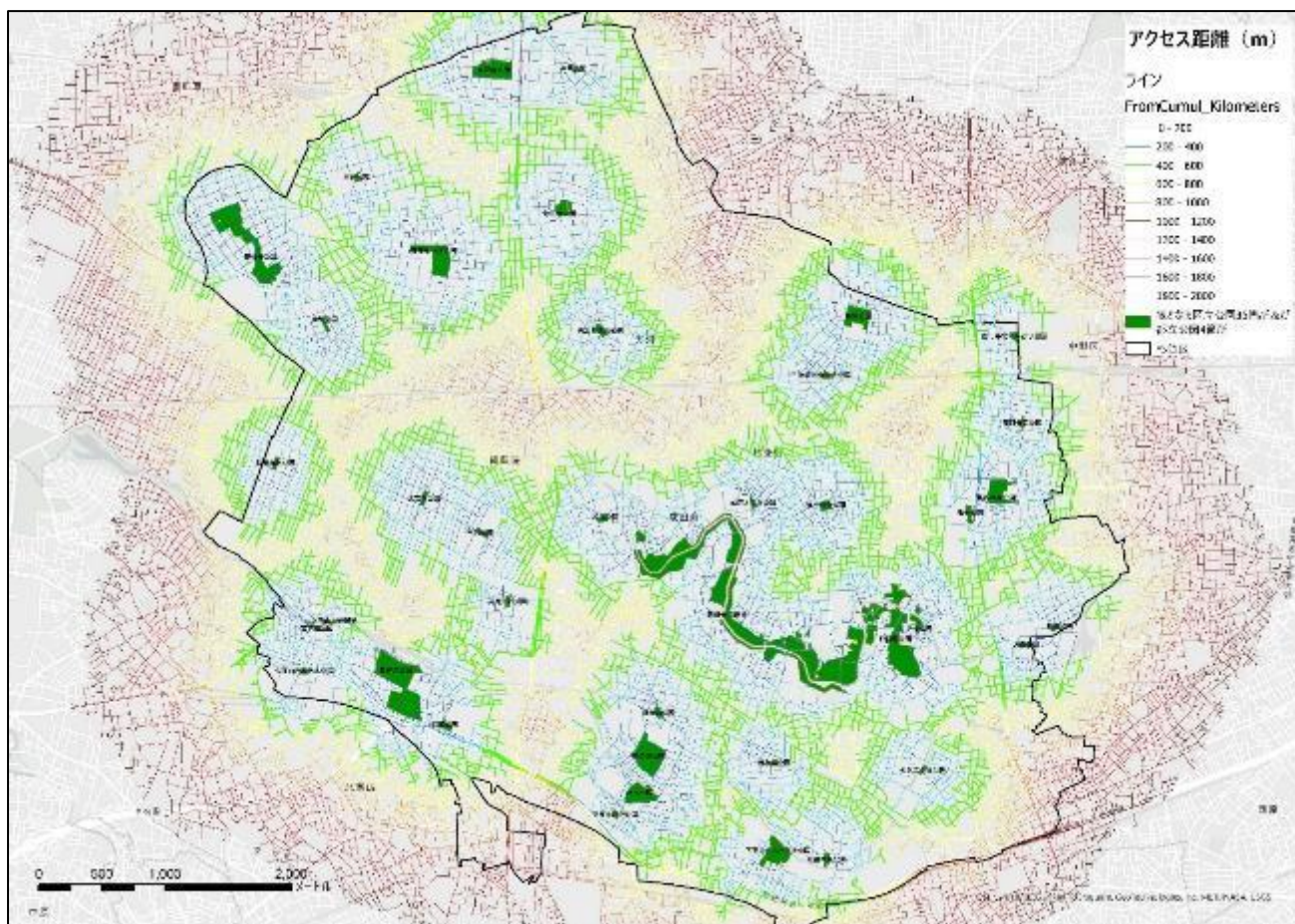


核となる公園の整備現況図

公園の中でも、区民の多様な公園利用ニーズに応えられる敷地 2,500 m²以上の区立公園を核となる公園と位置づけ、都立公園とともに地図上に配置し、公園から半径 500m（徒歩約 8 分）を図示します。比較的規模の大きな公園が不足している地域が区内に多くあるため、不足している地域の整備を進めていきます。



あわせて、核となる公園や都立公園の外周から道のり距離を計測したものの地図上に図示します。公園が不足する地域は直線距離で表した場合と同様の傾向が見られました。



注) アクセシビリティ分析は「マチミル」(清水建設株式会社)を使用。

4 エコロジカルネットワーク現況図

みどりの保全や創出を進めていく上で、様々な生き物が生息できる空間をつくっていくことも重要です。

生き物の中でも生態系上比較的上位に位置する鳥類に注目し、学術研究（※）から小型鳥類が400m移動できると想定し、区内一定規模以上の樹林（※）を飛び石状に移動できるかを把握しました。ネットワークを樹林保全や公園整備等で強化していきます。



凡例

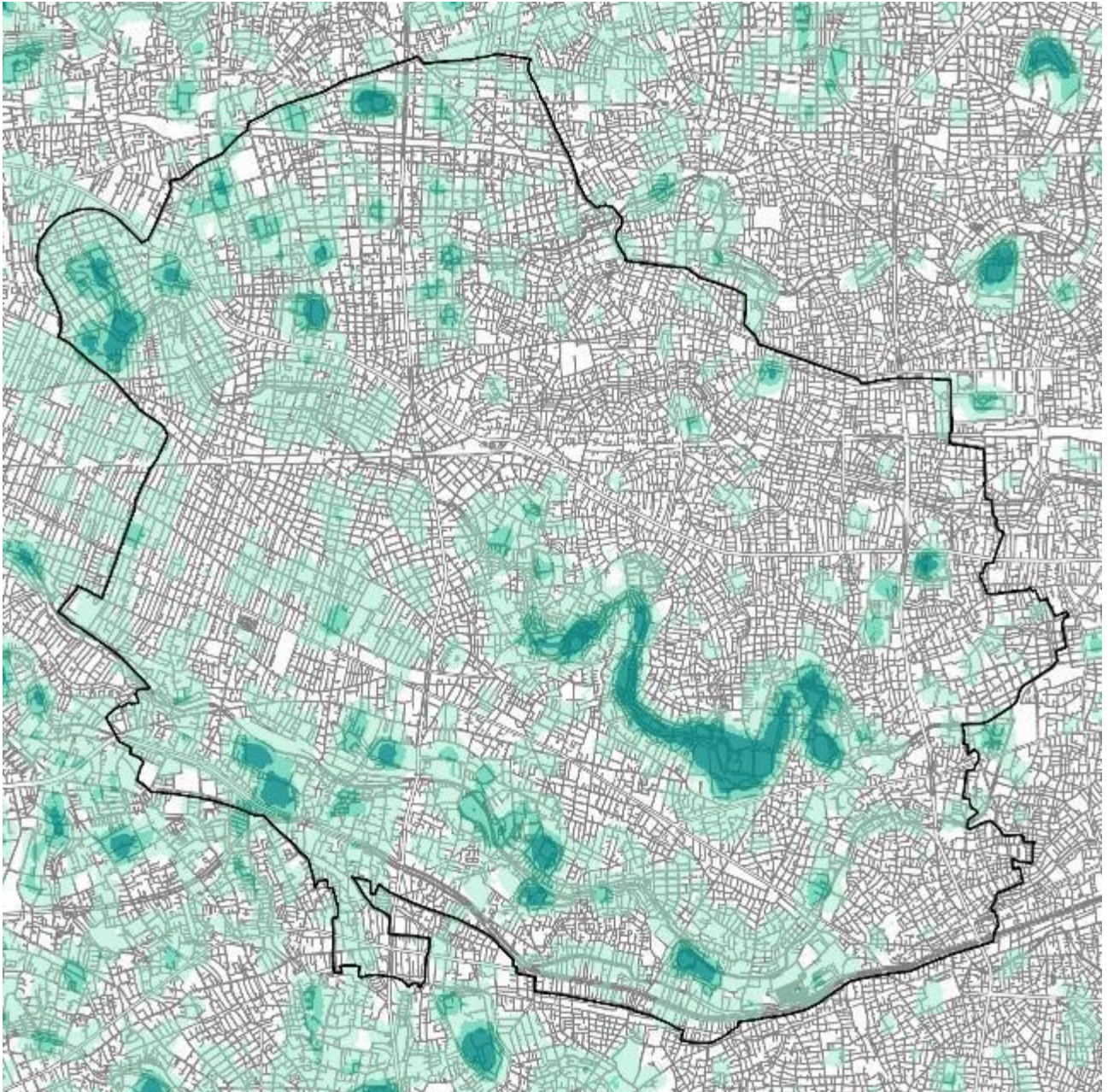


一定規模以上の樹林



エコロジカルネットワーク

あわせて、東京都環境局が作成する、みどりのネットワークマップ（※）を下図に示します。水色から青色になるにつれみどり豊かな環境を示し、濃い色が連続することでエコロジカルネットワークもつながっていると考えられます。区内一定規模以上の樹林配置図から見たネットワークと整合するところが多く見られます。



5 農地の現況図

生産緑地やその他農地は、区の北部や南西部に比較的多く残されていますが、相続等をきっかけに失われつつあります。

生産緑地制度を活用し農地を保全するとともに、相続等によってやむを得ず買取り請求があった場合は、貴重なみどりとして保全を図っていきます。



凡例



生産緑地地区



その他農地



区民農園・苗圃

6 杉並らしいみどりの保全地区

区では杉並の原風景といえる屋敷林や農地といった民有地のみどりを重点的に保全するため、平成26(2014)年9月に「杉並区緑地保全方針」を策定し、「杉並らしいみどりの保全地区」を10ヵ所選定しています。

これら地区内の屋敷林はとくに、所有者の意向を把握しながら、具体的なみどりの保全に取り組んでいくとともに、保全地区以外の区内に点在する屋敷林・農地についても区民・地域と連携をして守っていきます。



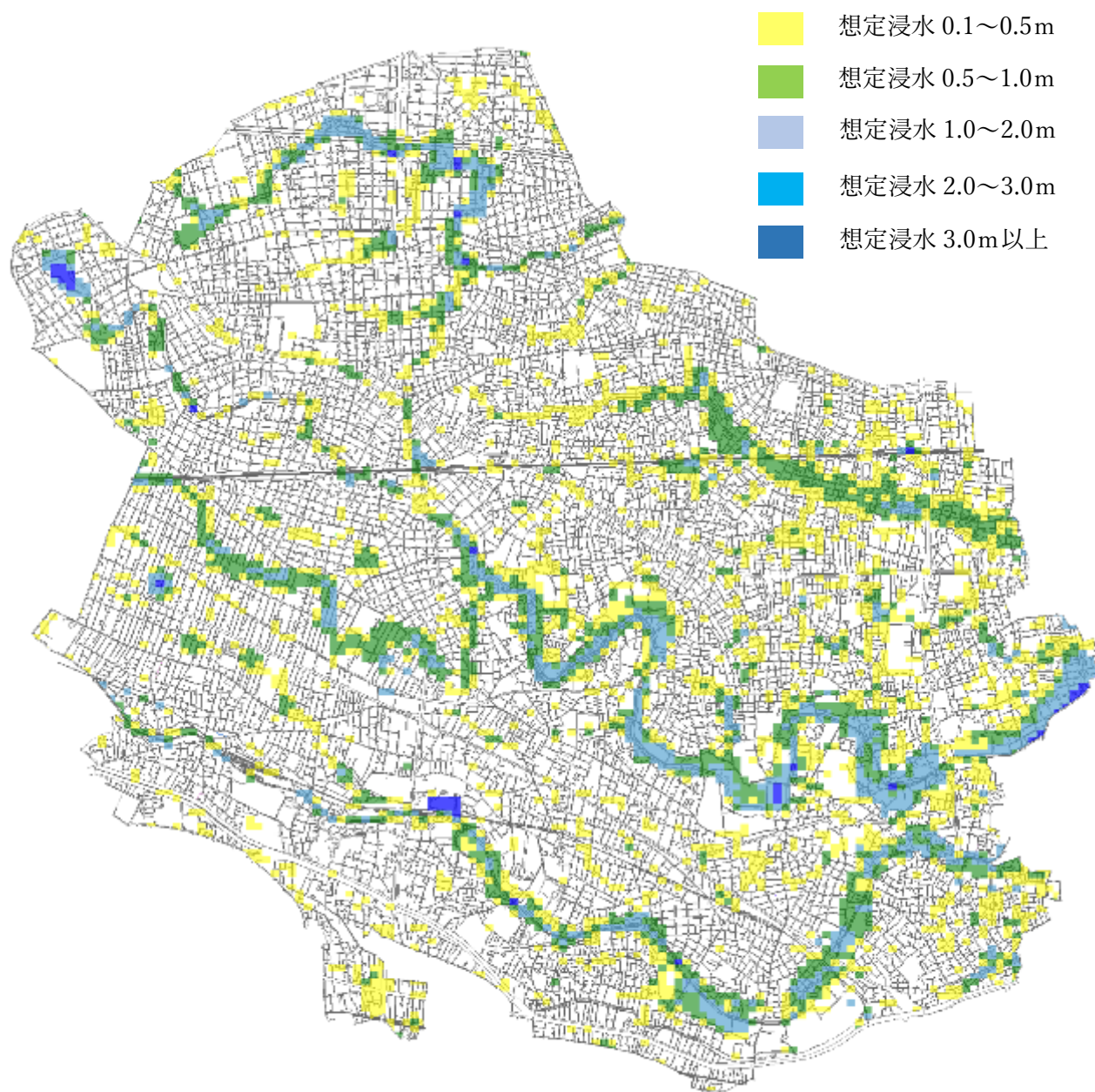
凡例



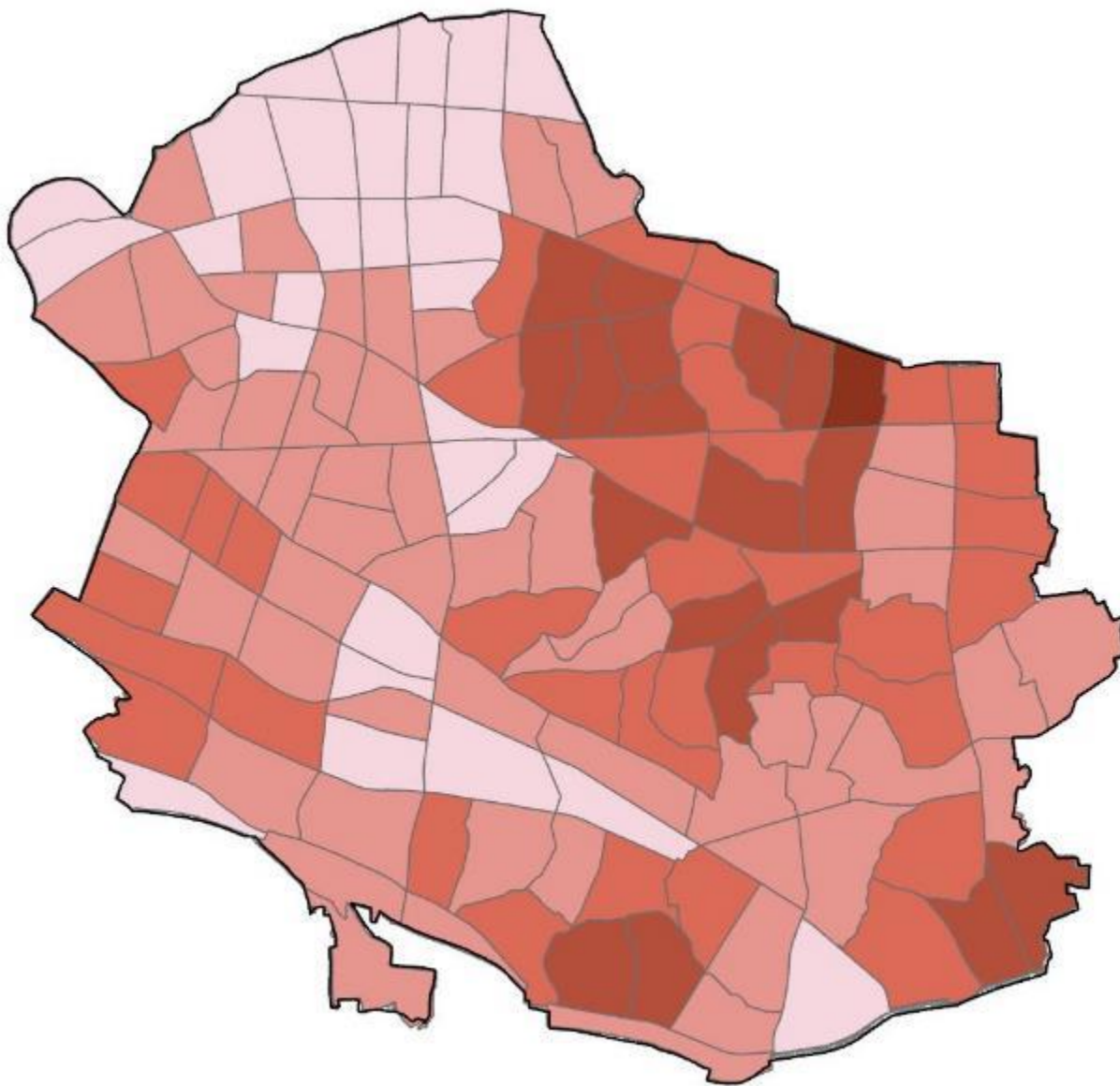
杉並らしいみどりの保全地区

6 災害に関する現況図

善福寺川や神田川、妙正寺川沿いでは、豪雨などの際に浸水するリスクが高い地域があります。公園緑地などの整備とともに雨水浸透・貯留施設の設置を進めながら、気候変動に伴う洪水被害の軽減を図ります。



高円寺、天沼、方南、和泉、下高井戸地域などでは、地震発生時の建物倒壊や火災発生による焼失の危険性が比較的高い地域とされています。首都直下型地震などの被害を最小限にとどめるため、このような地域ではオープンスペースとなる公園緑地の整備を積極的に進めていく必要があります。

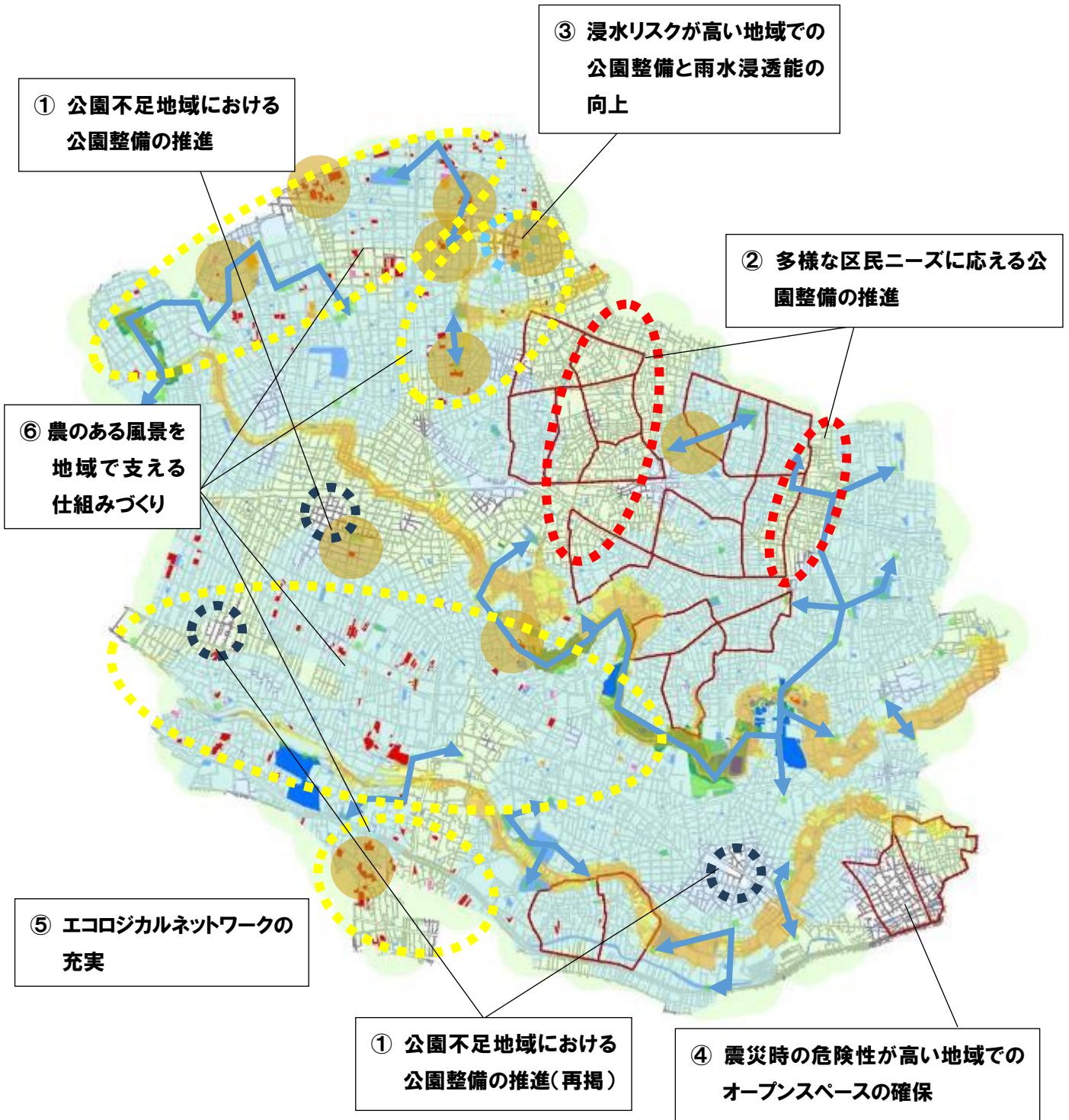


凡例（総合危険度）



7 みどりの方針図

6つの方針図や現況図を重ね、下図に示すとおり区全域で進める基本的なみどりの方針を設定しました。



① 公園不足地域における公園整備の推進

公園が不足している地域を中心に、近隣住民と調整しながら公園整備を進めていきます。

② 多様な区民ニーズに応える公園整備の推進

規模の大きい公園が周辺にない地域では、近隣住民の多様なニーズに応える公園整備を進めます。

③ 浸水リスクが高い地域での公園整備と雨水浸透能の向上

公園が不足し、浸水リスクが高い地域では、公園整備を積極的に進めるとともに、雨水浸透・貯留施設の導入を推進します。

④ 震災時の危険性が高い地域でのオープンスペースの確保

震災時の建物倒壊などの危険性が高く、身近な公園もない地域では防災機能の発揮を想定した公園緑地を積極的に整備します。

⑤ エコロジカルネットワークの充実

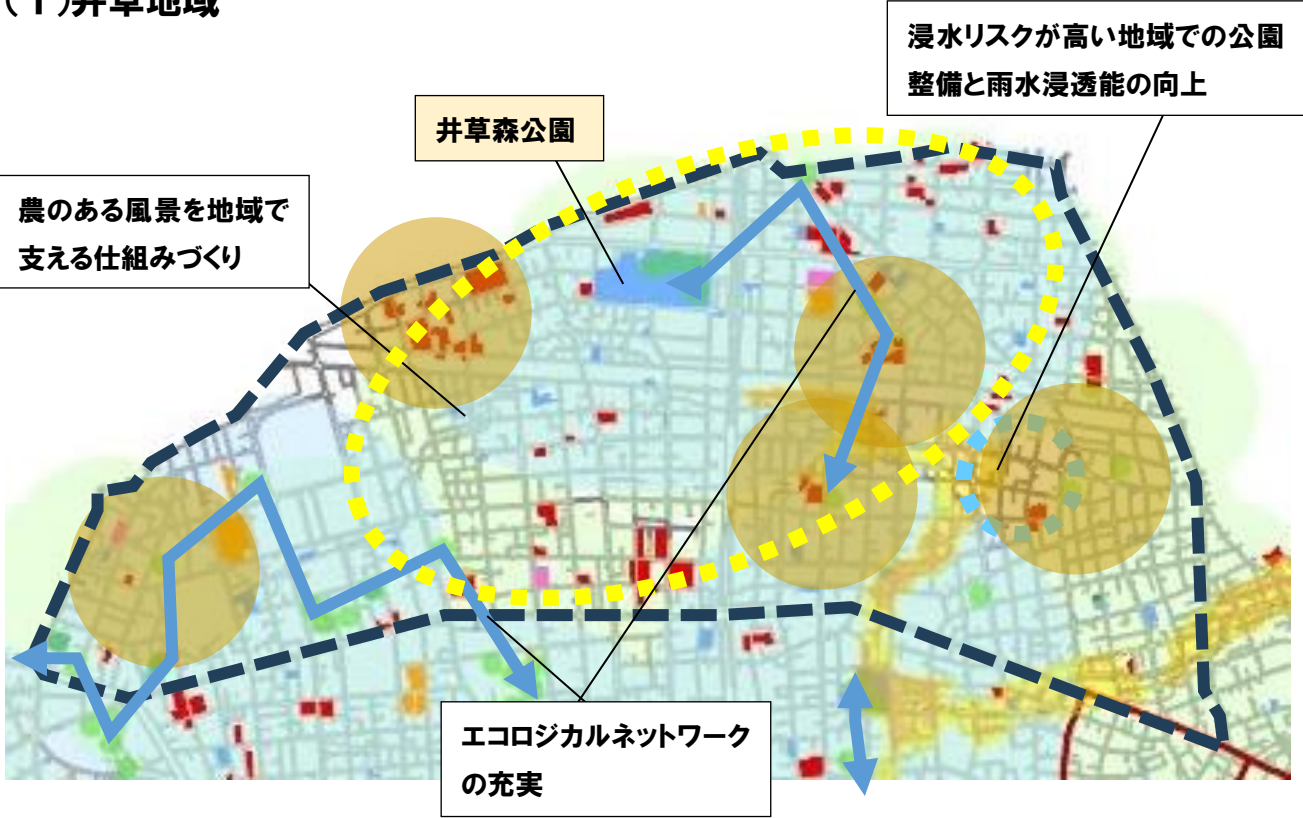
エコロジカルネットワークのつながりが弱い地域では、野生の生きものの生息環境に配慮した緑化などを奨励し、ネットワークを支えるみどりづくりを進めます。

⑥ 農のある風景を地域で支える仕組みづくり

現状残されている農地を保全し、その価値をさらに高めていくため、地域住民への普及啓発を強化していくとともに、地域の重要なみどりとして共に支えていく仕組みについて各取組の実践をとおして検討を進めます。

7 地域別方針図

(1) 井草地域



凡例

【身近な公園の整備現況図】
 身近な公園 身近な公園より 250m の範囲

【核となる公園の整備現況図】
 核となる公園（都立） 核となる公園（区立） 核となる公園より 500m の範囲

【エコロジカルネットワーク現況図】
 一定規模以上の樹林 エコロジカルネットワーク

【農地現況図】
 生産緑地地区 その他農地 区民農園・苗圃

【杉並らしいみどり現況図】
 杉並らしいみどりの保全地区

【災害に関する現況図】

①浸水想定区域 5.0m 以上 10.0m 未満 3.0m 以上 5.0m 未満
 0.5m 以上 3.0m 未満 0.0m 以上 0.5m 未満

②地域危険度 総合危険度ランク4、5

浸水リスクが高い地域での公園整備と雨水浸透能の向上

- ・旧井草川の遊歩道沿いは浸水リスクが高い地域であり、洪水被害の抑制を図るための貯留浸透施設等の設置などの整備を検討します。
- ・浸水リスクの低減を図るため、まとまりのある生産緑地や屋敷林・樹林地の保全を進めます。

エコロジカルネットワークの充実

- ・まとまった樹林などのみどりを保全し、井草森公園などの樹林とのネットワークを維持することで、鳥類など野生の生きものの移動を助けるエコロジカルネットワークを守ります。
- ・宅地化にあたっては敷地の細分化を抑制し、敷地まわりの緑化を誘導することでみどり豊かな住宅街区の保全を図り、エコロジカルネットワークの充実化を図ります。

農のある風景を地域で支える仕組みづくり

- ・農地が豊かな地域では、現在の土地利用が維持されるよう、地元野菜の学校給食への提供や農福連携、援農ボランティアなどの仕組みを活用し、農のある風景を地域で支えるよう誘導を図ります。

(2)西荻地域



凡例

【身近な公園の整備現況図】

■ 身近な公園 ■ 身近な公園より 250m の範囲

【核となる公園の整備現況図】

■ 核となる公園（都立） ■ 核となる公園（区立） ■ 核となる公園より 500m の範囲

【エコロジカルネットワーク現況図】

■ 一定規模以上の樹林 ⇔ エコロジカルネットワーク

【農地現況図】

■ 生産緑地地区 ■ その他農地 ■ 区民農園・苗圃

【杉並らしいみどり現況図】

● 杉並らしいみどりの保全地区

【災害に関する現況図】

- ①浸水想定区域
- | | |
|--------------------|-------------------|
| ■ 5.0m 以上 10.0m 未満 | ■ 3.0m 以上 5.0m 未満 |
| ■ 0.5m 以上 3.0m 未満 | ■ 0.0m 以上 0.5m 未満 |
- ②地域危険度
- | |
|---------------|
| ■ 総合危険度ランク4、5 |
|---------------|

公園不足地域における公園整備の推進

- ・ JR 中央線より南側（特に西荻南地域周辺）ではオープンスペースが不足しているため、身近な公園・広場の充実を図ります。

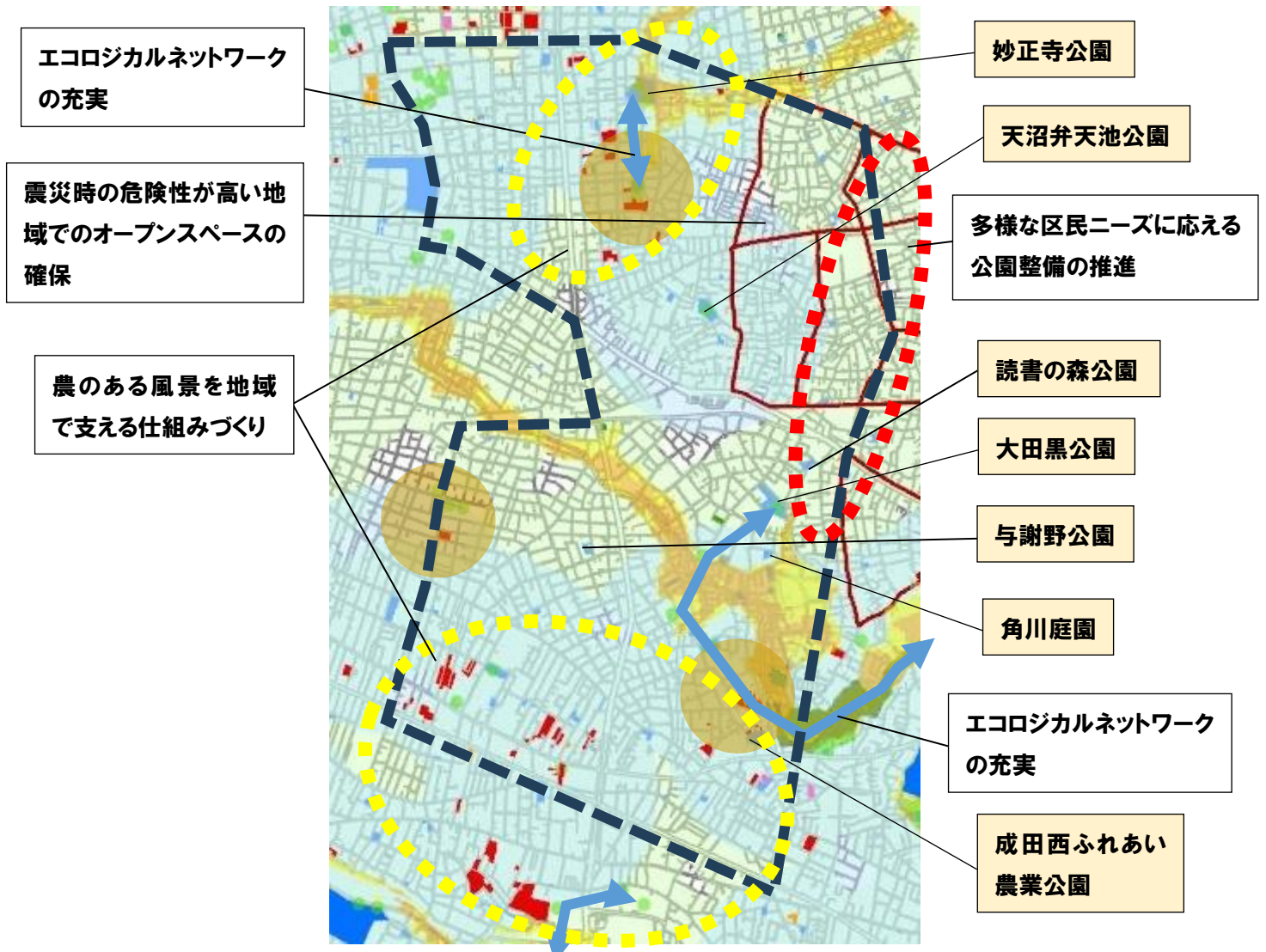
エコロジカルネットワークの充実

- ・ 善福寺公園周辺の住宅地ではみどり豊かな低密度の住宅地を維持しながら農地・樹林地の土地利用を維持することで、鳥類など野生の生きものの移動を助けるエコロジカルネットワークを守ります。
- ・ 自然共生サイトに登録された善福寺公園内の遅野井川親水施設を中心に、生きものの生息環境に配慮したみどりづくりを推進し、自然との共生を図った住環境を形成します。
- ・ 善福寺川流域では水辺のある豊かなみどりと親しめる空間づくりを進め、エコロジカルネットワーク形成に貢献しながら生きものと触れ合う機会を増やします。

農のある風景を地域で支える仕組みづくり

- ・ 善福寺公園周辺の風致地区や五日市海道周辺の農のある風景を守るため、地元野菜の学校給食への提供や農福連携、援農ボランティアなどの仕組みも活用しながら、農地や樹林地の保全に努めます。

(3) 荻窪地域



凡例

【身近な公園の整備現況図】

■ 身近な公園 ■ 身近な公園より 250m の範囲

【核となる公園の整備現況図】

■ 核となる公園（都立） ■ 核となる公園（区立） ■ 核となる公園より 500m の範囲

【エコロジカルネットワーク現況図】

■ 一定規模以上の樹林 ⇔ エコロジカルネットワーク

【農地現況図】

■ 生産緑地地区 ■ その他農地 ■ 区民農園・苗圃

【杉並らしいみどり現況図】

● 杉並らしいみどりの保全地区

【災害に関する現況図】

- ①浸水想定区域 ■ 5.0m 以上 10.0m 未満 ■ 3.0m 以上 5.0m 未満
 ■ 0.5m 以上 3.0m 未満 ■ 0.0m 以上 0.5m 未満
- ②地域危険度 ■ 総合危険度ランク 4、5

多様な区民ニーズに応える公園整備の推進

- ・核となる公園が徒歩圏内にない地域において、多様な区民ニーズに応えることのできる比較的規模の大きい公園の整備を推進します。
- ・天沼弁天池公園や妙正寺公園、読書の森公園、与謝野公園、大田黒公園、角川庭園、成田西ふれあい農業公園など、特色のある公園が多い利点を活かした公園の活用を推進します。

震災時の危険性が高い地域でのオープンスペースの確保

- ・天沼地域など震災時の危険性の高い地域を中心に公園・広場などのオープンスペースを確保します。

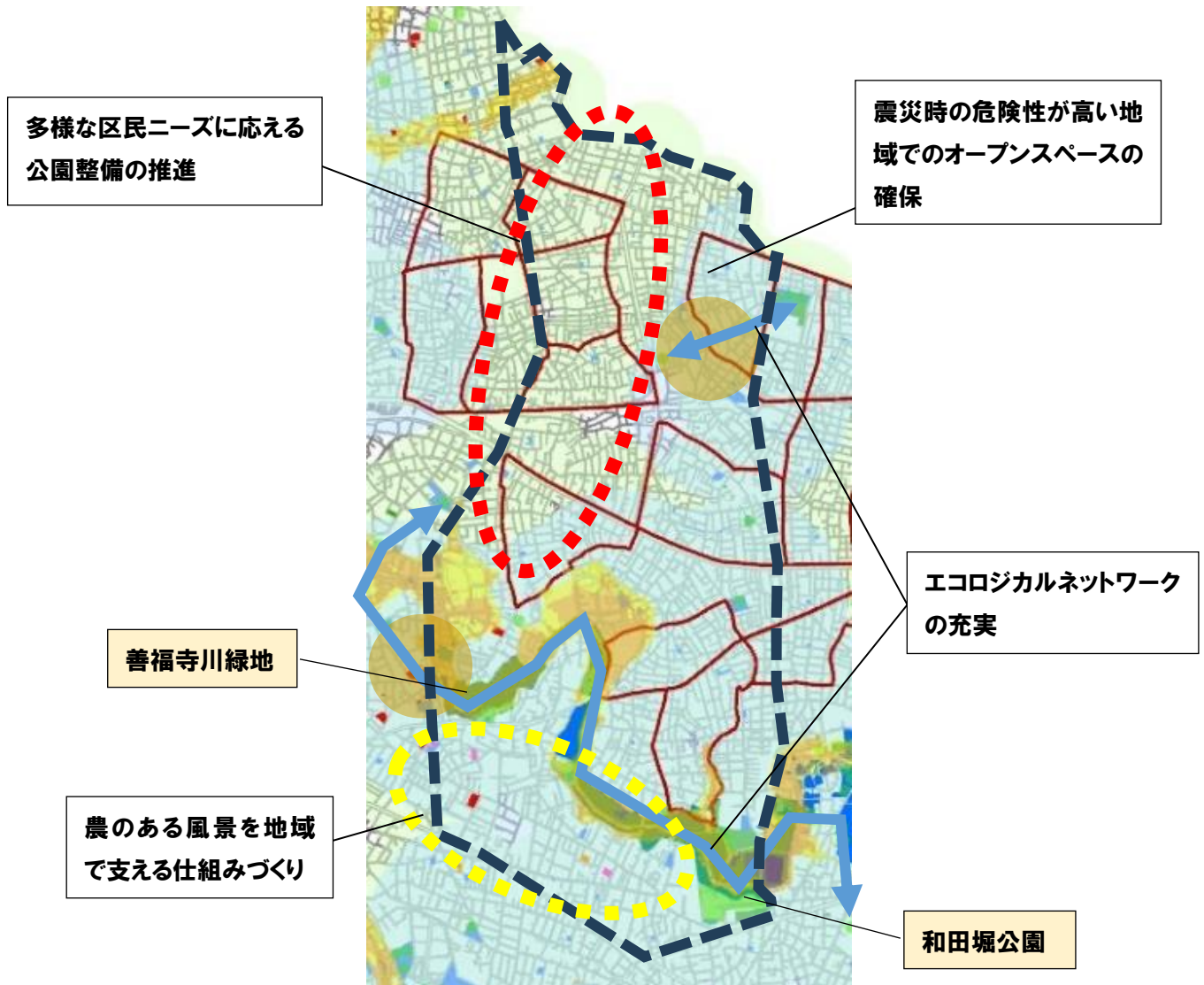
エコロジカルネットワークの充実

- ・みどり豊かな低密度の住宅地としての住環境を保全・育成しながら、農地・樹林地の土地利用を維持することで、鳥類など野生の生きものの移動を助けるエコロジカルネットワークを守ります。
- ・妙正寺川沿いや善福寺川沿いでは水辺のある豊かなみどりと親しめる空間づくりを進め、エコロジカルネットワーク形成に貢献しながら生きものと触れ合う機会を増やします。

農のある風景を地域で支える仕組みづくり

- ・五日市海道や井の頭通り沿道周辺の農のある風景を守るため、地元野菜の学校給食への提供や農福連携、援農ボランティアなどの仕組みも活用しながら、農地や樹林地の保全に努めます。

(4)阿佐谷地域



凡例

【身近な公園の整備現況図】
 身近な公園 身近な公園より 250m の範囲

【核となる公園の整備現況図】
 核となる公園（都立） 核となる公園（区立） 核となる公園より 500m の範囲

【エコロジカルネットワーク現況図】
 一定規模以上の樹林 エコロジカルネットワーク

【農地現況図】
 生産緑地地区 その他農地 区民農園・苗圃

【杉並らしいみどり現況図】
 杉並らしいみどりの保全地区

【災害に関する現況図】

①浸水想定区域 5.0m 以上 10.0m 未満 3.0m 以上 5.0m 未満
 0.5m 以上 3.0m 未満 0.0m 以上 0.5m 未満

②地域危険度 総合危険度ランク 4、5

多様な区民ニーズに応える公園整備の推進

- ・核となる公園が徒歩圏内にない地域において、多様な区民ニーズに応えることのできる比較的規模の大きい公園の整備を推進します。
- ・善福寺緑地や和田堀公園では、未開設区域の樹木・樹林を活かした整備を促進し、区を代表する公園・緑地としての育成を図ります。

震災時の危険性が高い地域でのオープンスペースの確保

- ・阿佐谷北、成田東地域など、震災時の危険性の高い地域を中心に公園・広場などのオープンスペースを確保します。

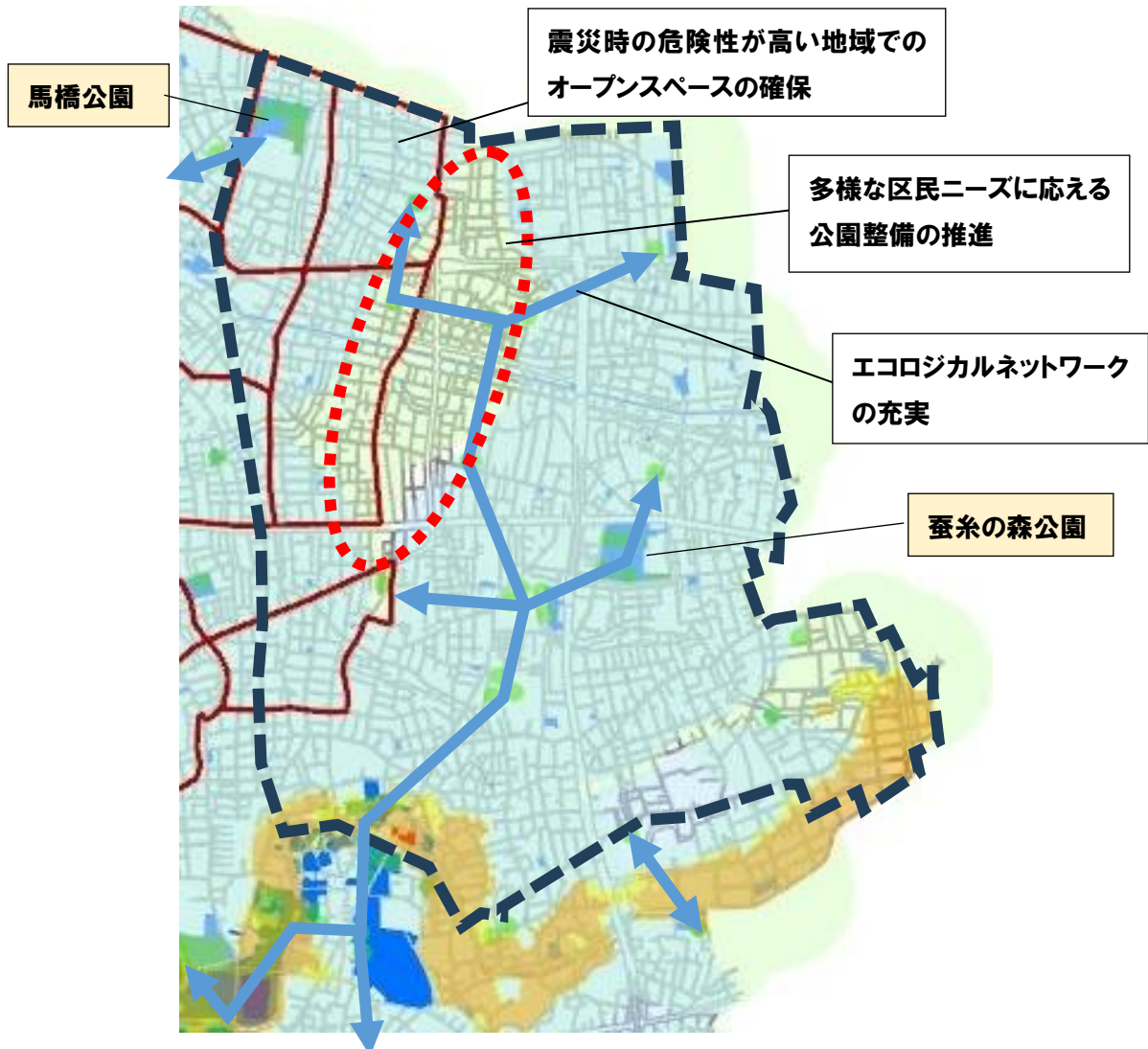
エコロジカルネットワークの充実

- ・大宮八幡宮周辺の特別緑地保全地区や和田堀公園周辺などの農地・樹林を保全し、面的に広がりのあるみどり豊かな住宅地を形成することでエコロジカルネットワークの充実化を図ります。
- ・善福寺川沿いでは水辺のある豊かなみどりと親しめる空間づくりを進め、エコロジカルネットワーク形成に貢献しながら生きものと触れ合う機会を増やします。

農のある風景を地域で支える仕組みづくり

- ・善福寺川流域に散在する農地を守るため、地元野菜の学校給食への提供や農福連携、援農ボランティアなどの仕組みも活用しながら、農地や樹林地の保全に努めます。

(5)高円寺地域



凡例

【身近な公園の整備現況図】

■ 身近な公園 ■ 身近な公園より 250m の範囲

【核となる公園の整備現況図】

■ 核となる公園（都立） ■ 核となる公園（区立） ■ 核となる公園より 500m の範囲

【エコロジカルネットワーク現況図】

■ 一定規模以上の樹林 ⇔ エコロジカルネットワーク

【農地現況図】

■ 生産緑地地区 ■ その他農地 ■ 区民農園・苗圃

【杉並らしいみどり現況図】

● 杉並らしいみどりの保全地区

【災害に関する現況図】

- ①浸水想定区域 ■ 5.0m 以上 10.0m 未満 ■ 3.0m 以上 5.0m 未満
 ■ 0.5m 以上 3.0m 未満 ■ 0.0m 以上 0.5m 未満
- ②地域危険度 ■ 総合危険度ランク4、5

多様な区民ニーズに応える公園整備の推進

- ・核となる公園が徒歩圏内にない地域において、多様な区民ニーズに応えることのできる比較的規模の大きい公園の整備を推進するとともに、和田堀公園においてみどりの拠点としての整備を進めます。

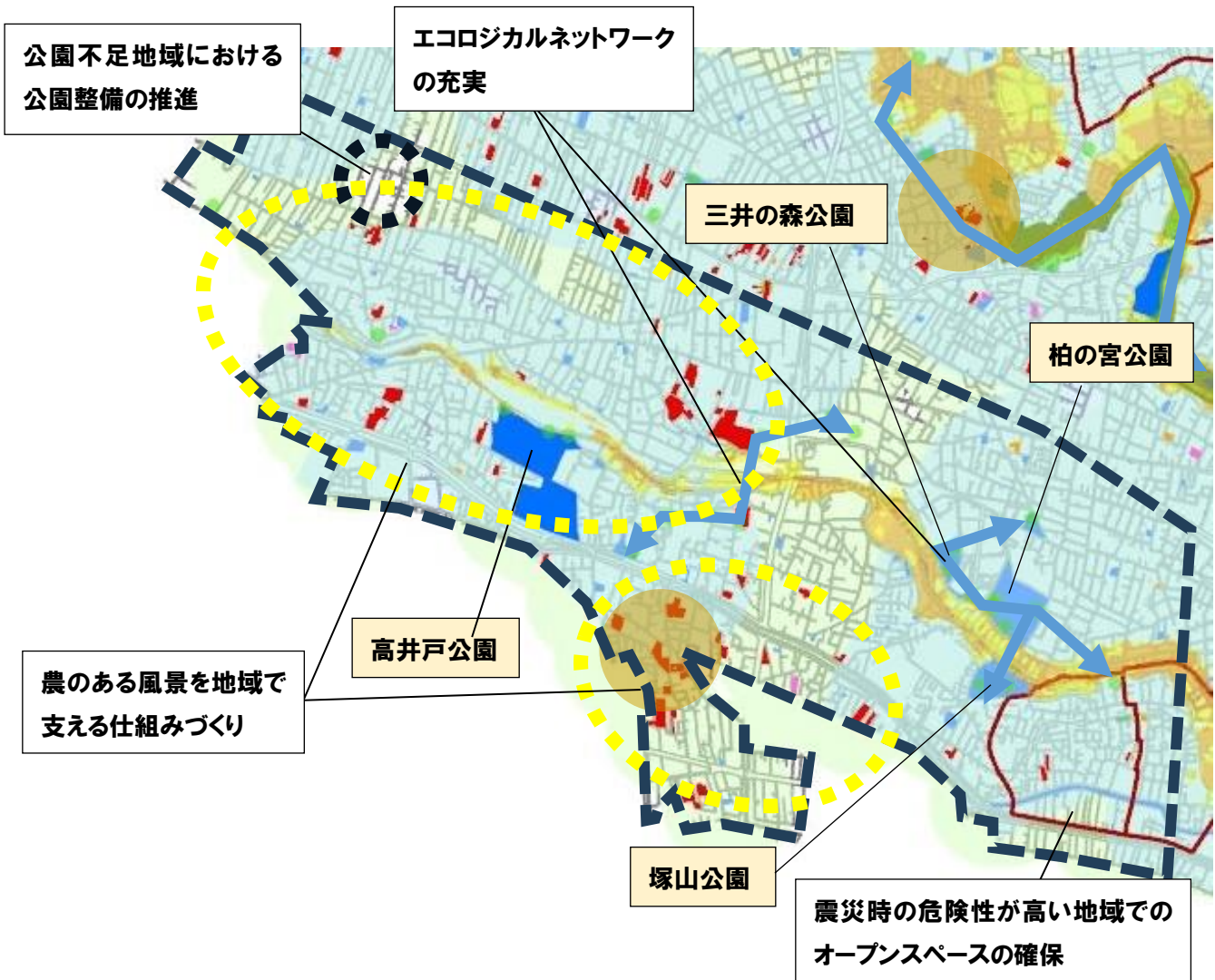
震災時の危険性が高い地域でのオープンスペースの確保

- ・馬橋公園の拡張整備における一時避難地の機能強化や（仮称）杉並第八小学校跡地公園の整備により、災害時に一時的に避難できるオープンスペースの確保を進めます。

エコロジカルネットワークの充実

- ・風致地区に指定されている和田堀公園周辺や水とみどりの景観形成重点地区に指定されている善福寺川沿いの住宅地では、みどり豊かでゆとりのある低密度な住宅地としての住環境を保全・育成し、エコロジカルネットワークの充実化を図ります。
- ・道路や緑道などの公共のみどりや商店の店先、住宅地の壁面のみどりなどにより、みどりのネットワーク化を進めます。

(6)高井戸地域



凡例

【身近な公園の整備現況図】

■ 身近な公園 ■ 身近な公園より 250m の範囲

【核となる公園の整備現況図】

■ 核となる公園（都立） ■ 核となる公園（区立） ■ 核となる公園より 500m の範囲

【エコロジカルネットワーク現況図】

■ 一定規模以上の樹林 ⇄ エコロジカルネットワーク

【農地現況図】

■ 生産緑地地区 ■ その他農地 ■ 区民農園・苗圃

【杉並らしいみどり現況図】

● 杉並らしいみどりの保全地区

【災害に関する現況図】

- ①浸水想定区域
- | | |
|--------------------|-------------------|
| ■ 5.0m 以上 10.0m 未満 | ■ 3.0m 以上 5.0m 未満 |
| ■ 0.5m 以上 3.0m 未満 | ■ 0.0m 以上 0.5m 未満 |
- ②地域危険度
- 総合危険度ランク4、5

公園不足地域における公園整備の推進

- ・久我山四丁目周辺では、まとまりのある農地・樹林地・屋敷林の保全を図りつつ、身近な公園・広場の充実を図ります。

震災時の危険性が高い地域でのオープンスペースの確保

- ・下高井戸四丁目など震災時の危険性の高い地域を中心に公園・広場などのオープンスペースを確保します。

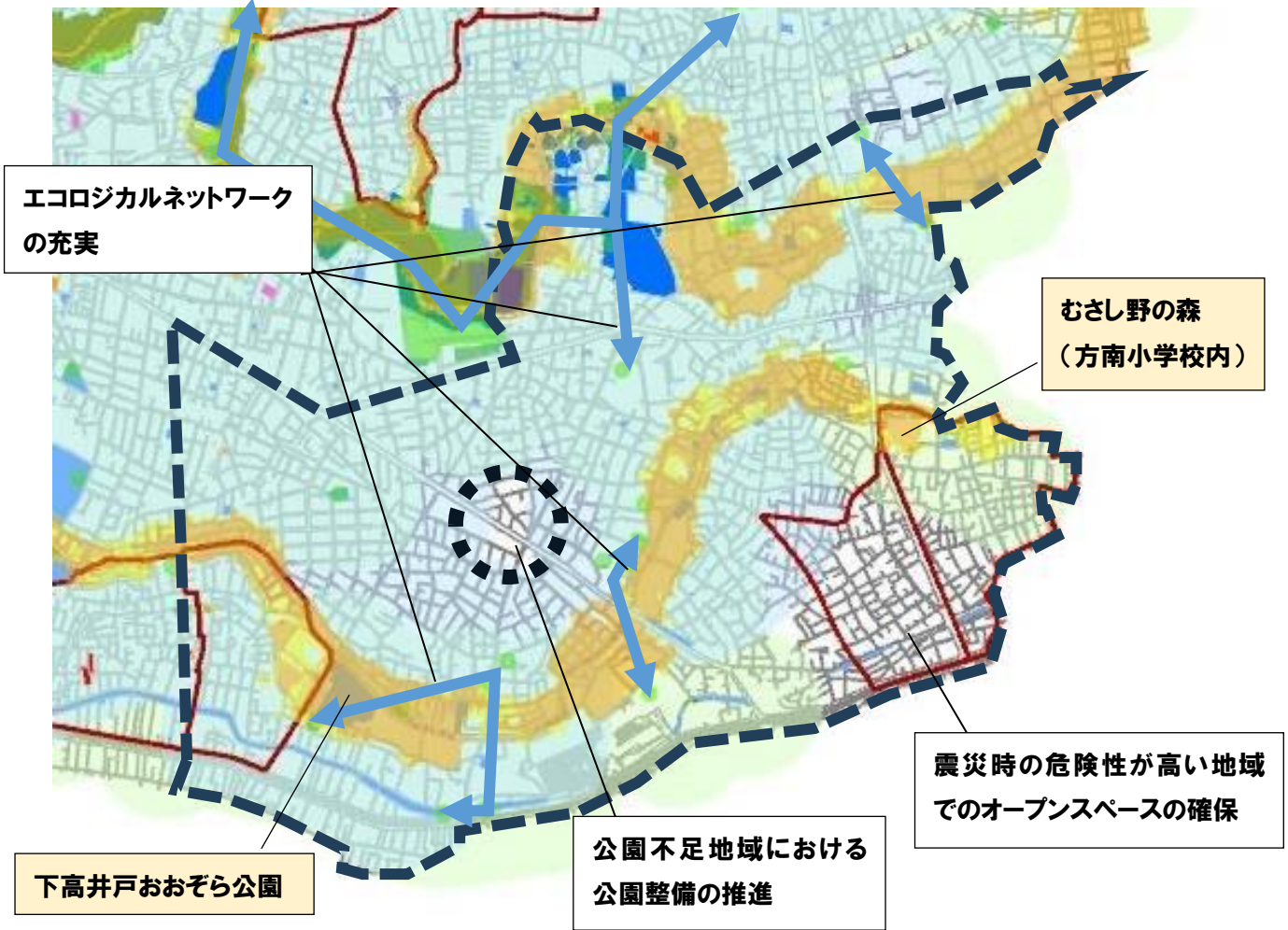
エコロジカルネットワークの充実

- ・玉川上水沿いや神田川沿いの住宅地では、みどり豊かなゆとりのある低密度住宅地としての住環境の保全・育成を進め、エコロジカルネットワークの充実化を図ります。
- ・河川沿いの公園や緑地などを活用し、水と親しめる空間づくりを進め、エコロジカルネットワーク形成に貢献しながら生きものと触れ合う機会を増やします。
- ・三井の森公園、既存の自然環境を生かした柏の宮公園や、みどりの相談所がある利点を活かし、自然体験の機会の創出、発信の拠点として活用を図ります。

農のある風景を地域で支える仕組みづくり

- ・まとまって分布する農地・屋敷林などの保全を進めるとともに、地元野菜の学校給食への提供や農福連携、援農ボランティアなどの仕組みも活用しながら、農のある風景を地域で支える仕組みづくりを推進します。

(7)方南・和泉地域



凡例

【身近な公園の整備現況図】

■ 身近な公園 ■ 身近な公園より 250m の範囲

【核となる公園の整備現況図】

■ 核となる公園（都立） ■ 核となる公園（区立） ■ 核となる公園より 500m の範囲

【エコロジカルネットワーク現況図】

■ 一定規模以上の樹林 ⇄ エコロジカルネットワーク

【農地現況図】

■ 生産緑地地区 ■ その他農地 ■ 区民農園・苗圃

【杉並らしいみどり現況図】

● 杉並らしいみどりの保全地区

【災害に関する現況図】

- ①浸水想定区域 ■ 5.0m 以上 10.0m 未満 ■ 3.0m 以上 5.0m 未満
 ■ 0.5m 以上 3.0m 未満 ■ 0.0m 以上 0.5m 未満
- ②地域危険度 ■ 総合危険度ランク 4、5

公園不足地域における公園整備の推進

- ・永福四丁目周辺では、公園等のオープンスペースが不足しているため、身近な公園・広場の充実を図ります。

震災時の危険性が高い地域でのオープンスペースの確保

- ・和泉一丁目、方南一丁目などの震災時の危険性の高い地域を中心に公園・広場などのオープンスペースを確保します。
- ・和田堀公園の未整備区域の整備を促進し、避難場所としての機能の強化を図ります。
- ・下高井戸おおぞら公園東側の地下水調整池工事を進め、河川の洪水対策を推進します。

エコロジカルネットワークの充実

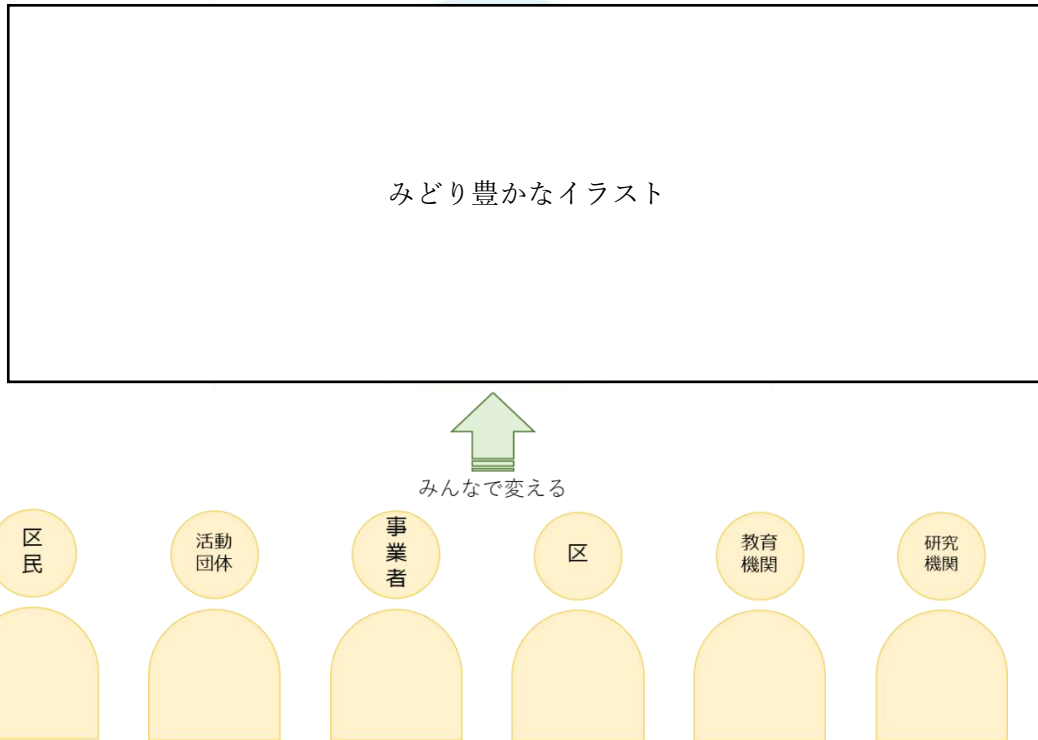
- ・豊かなみどりを持つ大きな戸建住宅街区では敷地の細分化を抑制し、現在の土地利用が維持されるよう誘導するとともに、生け垣や植栽など敷地まわりの緑化を誘導することにより、エコロジカルネットワークの充実化を図ります。
- ・河川沿いの公園や緑地などを活用し、水と親しめる空間づくりを進め、エコロジカルネットワーク形成に貢献しながら生きものと触れ合う機会を増やします。
- ・むさし野の森（方南小学校内）など、学校施設や公園などのみどりの保全・育成を進めみどりと触れ合える場の充実化を図ります。

第6章

実現に向けて

1 取り組みの体制

本計画は、区民、活動団体、事業者、区、教育機関、研究機関など多様な主体が関わらうことで、みどり豊かなまちを目指します。

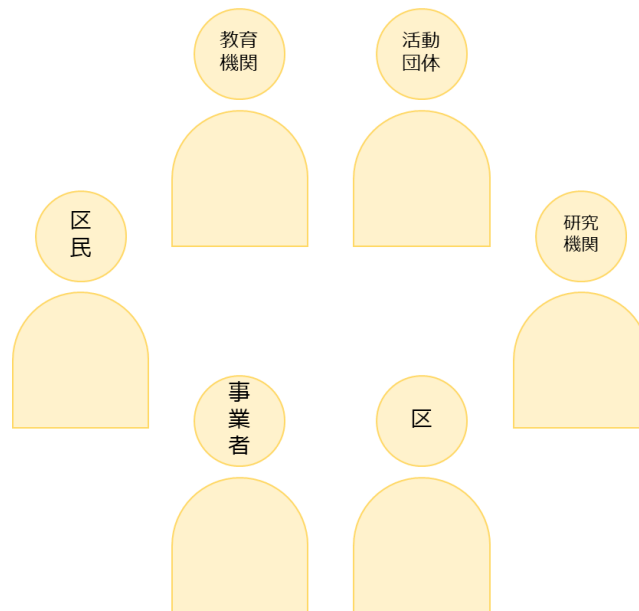


杉並区環境清掃審議会等による専門的視点からの意見の聴取

学識経験者などから助言を頂きながら取組の推進や見直しを図るため、杉並区環境清掃審議会などを活用します。必要に応じて審議会に部会や庁内の検討組織を設置し、広範多岐にわたって各課と連携できる仕組みづくりを検討します。

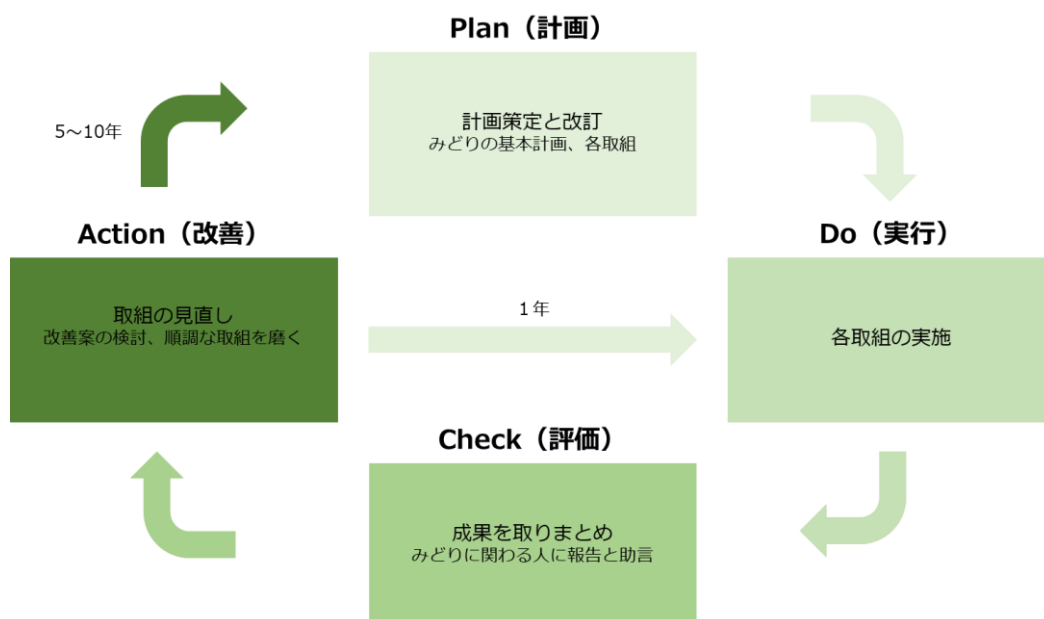
多様な主体との連携

区民、活動団体、事業者、区、教育機関、研究機関が連携し、情報収集や意見交換ができる体制の整備を検討します。



2 進行管理

杉並区環境清掃審議会等による意見を参考に、みどりの基本計画の取組を点検・検証していきます。そのうえで改善を図り、計画を推進します。



多様な主体と取組を管理

取組の管理は、区民・事業者など多様な主体と進めます。会議、SNS などを通じて、多様な主体に広く周知するとともに、例えば、杉並区気候区民会議といった話し合いの場なども活用して取組を推進します。区民・事業者など多様な主体と取組を管理します。

3 財源の確保

国、都の交付金を積極的に活用し、区の負担を最小限に留めながら取組を進めます。また、民間の力を使ってネーミングライツや公園を積極的に活用することで、公園の占用料や使用料の徴収を図ります。さらに、みどりの基金やふるさと納税の周知を図りつつ、あらゆる方面から財源の確保を進めます。